



柴田笥浦 『新俳人譜』 について

著者	青木 稔称
著者別名	AOKI Toshihiro
雑誌名	文林
巻	41
ページ	1-32
発行年	2007-03-20
URL	http://doi.org/10.14946/00001571



柴田筥浦『新俳人譜』について

青 木 稔 弥

もう十年余前のことになるが、以下のように記したことがある。

管見の範囲では、「俳人名簿」として最も数多くの人物を登載するのは、柴田筥浦作製のものである。神戸松蔭女子学院大学国文共同研究室に、黒のペン字で書かれた柴田筥浦『俳人譜』全十巻、別号篇二巻、製本済と、その増補稿——未製本、「新俳人譜」と命名するつもりであったと察せられる——を蔵している。

〔明治の『漱石』』『漱石研究』第五号 一九九五・一一〕

柴田筥浦『新俳人譜』について

二〇〇七年の現在においても、柴田筥浦作製のもが「俳人名簿」として最も詳しいという評価に変更を加える必要はないだろう。だが、その価値に比して、知名度が極めて低いというのも事実である。非公開にしているわけではないものの、正式な登録をしていないこともあり、利用者が皆無に等しいというのが現状なのである。閲覧に來られ

た学外者は複数、存在するが、論文等への利用は、前掲拙稿以外では、故飛鳥井雅道氏が

『諸橋大漢和』は、日本人としては幕末の越後の詩人、長尾秋水（文久三年に八五歳で死亡）を挙げるのみだが、長尾秋水は「山樵」などとも名乗っていた。いかにも金沢藩士の漢詩人の別号にふさわしいというべきか。友人・青木稔弥の教示によると、幕末以後、日本にもかなりの秋水はいたらしい。柴田筭浦『俳人譜』（神戸松蔭女子学院大学蔵）は、寛政年間の『春興集』の選者の露下亭秋水、以下、嘉永年中まで、六名の秋水を列挙している由である。これらの俳人の場合もおそらくは『莊子』が意識されていたとしてもよいだろうと、『俳人譜』の教示を受けた部分のみを読んだ限りでは思われる。江戸時代に文人たちは地方にまで深く根を張って浸透していたから、『莊子』に典拠を求める「秋水」が多く登場しても何の不思議はないのである。

〔中江篤介の『秋水』と幸徳伝次郎の『秋水』〕『初期社会主義研究』第五号 一九九八・一二

と述べておられるのが、おそらく、唯一のものである。そこで、今回、神戸松蔭女子学院大学国文共同研究室から図書館へと移管、正式登録し、広く大方の利用に供することにした。紹介の弁を弄する所以である。

『俳人譜』ならびに、その増補稿の現状を記しておく、『俳人譜』は、二巻（かき 173～429丁）、九巻（ひも 1563～1754丁）、別号篇一が欠けている。増補稿については、「あ」～「き」（1～707丁）と「さ」の後半～「し」の前半（1083～1399丁）が欠けている。詳しい経緯は不明だが、二十年ほど前、神戸松蔭女子学院大学国文共同研究室に蔵する

ようになった時点で既に欠落していたようである。

未製本の増補稿には、その保護のために厚紙が数多く付されているが、その一つに記された「俳人譜九（1949頁以降）索引記入未済」は「新俳人譜九（3216頁以降）索引記入未済」と訂正されている。増補稿を「新俳人譜」と命名するつもりであったに違いない。

『新俳人譜』への登載俳人は倍増し、既存分についても

篁村（クワウソン）饗庭氏、名は、竹廼舎と号す、東京人、小説雑筆の著述多し、大正十一年六月廿日歿、享年六十八。

のような空白が残る不完全な状態であった『俳人譜』の記述が、

『新俳人譜』では、

篁村（クワウソン） 饗庭氏、名は与三郎、龍泉、太阿、布川、竹廼舎と号し初め戯号を南伝二と称したり、安政二年八月十五日江戸下谷龍泉寺町に生る、明治七年読売新聞社に雇はれ後ち

465

1	神職、由永果寺素丸門に入り、寛政三年春
2	法房と号す、文政中、白茅句集、竹廼
3	す。
4	篁村（クワウソン） 饗庭氏、名は
5	舎と号す、東京人、小説雑筆の著述多し、
6	大のち一昨年六月廿日歿、享年六十八。
7	竹廼舎と号す、又在字也。
8	月名と号す、又在字也。
9	一
10	一
11	一
12	一
13	一
14	一
15	一
16	一
17	一
18	一
19	一
20	一

1	春法書とあり、又政中、白茅句集の撰に助
2	カマ。
3	篁村（クワウソン） 饗庭氏、名は与三郎、龍泉、太阿、布川、竹廼舎と号し初め戯号を南伝二と称したり、安政二年八月十五日江戸下谷龍泉寺町に生る、明治七年読売新聞社に雇はれ後ち
4	竹廼舎と号し初め戯号を南伝二と称したり、安政二年八月十五日江戸下谷龍泉寺町に生る、明治七年読売新聞社に雇はれ後ち
5	日江戸下谷龍泉寺町に生る、明治七年読売新聞社に雇はれ後ち
6	日江戸下谷龍泉寺町に生る、明治七年読売新聞社に雇はれ後ち
7	日江戸下谷龍泉寺町に生る、明治七年読売新聞社に雇はれ後ち
8	日江戸下谷龍泉寺町に生る、明治七年読売新聞社に雇はれ後ち
9	日江戸下谷龍泉寺町に生る、明治七年読売新聞社に雇はれ後ち
10	日江戸下谷龍泉寺町に生る、明治七年読売新聞社に雇はれ後ち
11	日江戸下谷龍泉寺町に生る、明治七年読売新聞社に雇はれ後ち
12	日江戸下谷龍泉寺町に生る、明治七年読売新聞社に雇はれ後ち
13	日江戸下谷龍泉寺町に生る、明治七年読売新聞社に雇はれ後ち
14	日江戸下谷龍泉寺町に生る、明治七年読売新聞社に雇はれ後ち
15	日江戸下谷龍泉寺町に生る、明治七年読売新聞社に雇はれ後ち
16	日江戸下谷龍泉寺町に生る、明治七年読売新聞社に雇はれ後ち
17	日江戸下谷龍泉寺町に生る、明治七年読売新聞社に雇はれ後ち
18	日江戸下谷龍泉寺町に生る、明治七年読売新聞社に雇はれ後ち
19	日江戸下谷龍泉寺町に生る、明治七年読売新聞社に雇はれ後ち
20	日江戸下谷龍泉寺町に生る、明治七年読売新聞社に雇はれ後ち

記者となる、小説雑筆の著述多く、劇評に名あり、大正十一年六月廿日歿、享年六十八。

と、増補され、大いに充実した内容となっている。

成立事情を物語るもの（凡例など）は皆無だが、『新俳人譜』には、「索引」281丁、「引用書籍概要」58丁、「俳人系譜」80丁、「地方別年代別俳人分布表」7丁、「別号篇増補」650丁も付されており、「引用書籍概要」の最終丁うらに

函館市誌	函館日々新聞社	同	十
岐陽雅人伝	野田醒石	同	十
高松市史	高松市役所	同	八
八戸俳諧史	北村古心	同	八
北方町志	北方町役場	同	七
俳人許六の研究	鈴木重雅	同	七
一茶の再吟味	西谷勢之介	同	七
俳人真蹟全集	平凡社版行	同	六
俳人文艸	市橋 鐸	同	五
煩悩人芭蕉	西谷勢之介	昭和	五

1	一茶の俳句と其一生	横山青娥	同	三
2	一茶の種々相	川島つゆ	同	三
3	連俳史	樋口 功	同	三
4	加賀の年代女性の生涯	吉松祐一	同	四
5	筑後俳諧史	竹下 天	同	四
6	天明俳人論	西谷勢之介	同	四
7	一茶の研究	藤 才安也	同	五
8	煩悩人芭蕉	西谷勢之介	昭和	五
9	俳人文艸	市橋 鐸	同	五
10	俳人真蹟全集	平凡社版行	同	六
11	一茶の再吟味	西谷勢之介	同	七
12	俳人許六の研究	鈴木重雅	同	七
13	八戸俳諧史	北村古心	同	八
14	岐陽雅人伝	野田醒石	同	十
15	函館市史	高松市役所	同	八
16	函館市誌	函館日々新聞社	同	十

続大阪人物誌	石田誠斎	同 十一
讃岐俳諧史稿本	大西一外	同 十一

とあるので、およその下限は明らかであるといえよう。

最後に、サンプルとして、『新俳人譜』から「ら」の項すべてを呈示する。ただし、原寸大ではなく、二つ折りにされている原稿用紙(33×24cm、匡郭の内側で測れば25×19cm)を広げ、上下二段、縮小した形で示すことにした。

現在の研究水準からすれば、正確さに難があることは確かであるが、情報量の多さは御理解いただけれると思う。例えば、『俳文学大辞典』(角川書店 平八・三)巻末「人物索引」の「ら」の項にある俳人は、頼矯、来山*、未耜*、来之、雷枝、雷師、雷石*、来雪、来川*、来道、雷洞、来徳、頼邑、蘿隠、落安舎、洛下童、落月庵、落梧*、楽山、楽山子、落柿舎、落日庵、落水*、落葉庵、洛陽山人、落葉堂、落葉坊、羅江*、蘿斎、羅山、螺舎、羅城*、羅人*、羅青、螺窓、羅蘇山人*、落霞窓、蘿父、羅文、羅門回、蘿来、々々哩、懶窩、巒化、嵐外*、蘭化翁、嵐牛*、蘭兮、蘭桂*、嵐月、蘭古、蘭袴、巒古、蘭更*、蘭更、巒岡、蘭才、嵐山、蘭山、嵐枝*、蘭之、嵐二、嵐七*、蘭州、蘭舟、蘭秀*、嵐戎、蘭十、蘭秀子、蘭秀舎、嵐松、瀾城、覧水*、蘭水、嵐青*、蘭石、嵐雪*、嵐窓、藍叟、蘭叟、巒太*、蘭台*、蘭台(大村純庸)、嵐竹、蘭兆、瀾長、覧陳、嵐亭、蘭亭、嵐亭治助、蘭杜、巒動*、蘭坡、蘭風、嵐歩、蘭圃、藍明、嵐蘭*、蘭里*、蘭亮、蘭輅が、そのすべてで、立項されて解説があるのは*を付したもののみである。諸賢の大きいなる活用をお願いしたい。

二八二二

1	四羅山(ラガシ)	廣葉柏	(寛延元)	の璞あり。
2	四羅山(ラガシ)	美濃人	元禄年中。	
3	四羅城(ラシヤ)	秋氏	名曰寂亭	圓珠庵、寂
4	静庵、虎足庵、百崖	羅文	と号す、	庵張名
5	古屋光蓮寺廿二世任職	晩臺門、	又畫と能	
6	す、文化四年十月八日歿、	松の硯、	更料記	
7	行の璞あり。			
8	四羅俊(ラシニ)	金樞園と号す	諸岐高松人	
9	風狀と交遊す、寛延年中。			
10	四羅人(ラシニ)	山口氏	通稱雲四郎、	蛭方高
寫瀨山房				
11	老松窩と号す	京都人、	松屋と号す	書肆と
12	宮玉、淡々の京に來りし時、	之と家に留め		
13	て頗る翰腕し、終に其の門に入りしが、	後		
14	ち其の風調に懐らず、	貞徳の古風と唱へて		
15	京都六角に阿射山社中と組織し、	別に一家		
16	と号す、世に阿射山社と号す、	宝曆二年		
17	七月廿九日歿、享年五十四、	三條川端法林		
18	寺に葬す、法海寺樹觀宗茂居士、	獨吟千句		
19	花紅葉	嘉慶かきす	廣初号	あし扇
20	一、菊句、枕草子、	吟澤高音	本即吟百首	明

二八二三

1	心身	ふし册	明石集	廣葉集	貞徳百回
2	忌	と璞す、	家集波克	璞	老珠窩獨吟百韻
3	追善集	不慮のうら葉	(里羅江象遺共論)	天の	
4	四年廿三回忌	あり、	のふみ	(皇和元五十回)	
5	直善牛行編	あり。			
6	四羅石(ラシキ)	志山氏、	巴卜の田、	備前岡山人	
7	四羅川(ラシキ)	山本氏、	攝津伊丹人、	蝶羅門	
8	出永五年十一月六日歿、	西宮信行寺に葬す			
9	十七回追善集	そのかみきぬ	(皇東蟻東共		
10	編)あり。				
寫瀨山房					
11	四羅川(ラシキ)	豊後日田人、	文化年中。		
12	四羅村(ラシキ)	森氏、	名曰哲花、	九日庵、	春興
13	と号す、	阿波那賀郡	野野人、	明治十六年	
14	六月三日歿、	享年六十五、	同地中山宮跡野		
15	に葬す。				
16	四羅大(ラシキ)	陸前仙臺人、	天明年中。		
17	四羅子(ラシキ)	信州上高井郡相、	為人、	文化年	
18	中。				
19	四羅白(ラシキ)	伊勢山田人、	享保年中。		
20	四羅空(ラシキ)	我後今所人、	享保年中。		

2024

1	羅鳳(フク)	松井氏	通称油屋仁光	門、長
2	明下園人	蝶亭門	文政年中。	
3	羅鳳(フク)	三村氏	名口政二郎	石蕉庵
4	錦才	見外、甥	為山、蓮宇	等裁に並び
5	後、蘆風	に從ふ	諸團と夕野才。	
6	羅文(フク)	瀧澤氏	名口興三郎	通称直三郎
7	後、臺右衛門	東圃舎と稱す	馬琴の兄	
8	江戸人	吾山門	寛政十年八月十七日歿	
9	享年四十。			
10	羅扇(フク)	休諸遊覽志	(安永七)の撰	
寫瀛山房				
11	あり。			
12	羅峯(フク)	播州龍野人	元禄年中。	
13	羅峯(フク)	清友舎と稱す	播州寒川郡津田	
14	人	天明年中。		
15	羅鳳(フク)	敵日庵	稱す	伊勢松坂人。
16	羅亦(フク)	初田氏	丹後浪人	文化年中。
17	羅本(フク)	秋氏	終南山人	と稱す、山城八
18	幡人	關亭門	天明年中。	
19	羅陽(フク)	初前	天童人	安永年中。
20	羅々坊(フク)	播州人	寛政年中。	

2025

1	羅來(フク)	信州麻績人	朴勤の孫	二寸の
2	つゆ	(文化三)	朴勤三回忌書	と撰す。
3	羅良(フク)	早田氏	通称有徳	藤羅園と
4	稱す	肥前早戸早岐村人	文化年中。	
5	羅院(フク)	中井氏	京都松屋町通一條下ル	
6	住、羅人門	輕芳高二世	と襲ふ、故ありて	
7	室岐高口境之北	明知三年	名之北て帰洛、	
8	安永五年	夏點列に如付る	安永八年十月十	
9	三日(或云二日)	(又云七月廿九日)	歿、享年	
10	五十六(或云三十九)	(又云七十一)	傳世、身の	
寫瀛山房				
11	秋玉志代	の度、記人	心くろ	雙々團長泉寺
12	に葬る。			
13	羅因(フク)	高都人	天保年中。	
14	羅圭(フク)	尾張人	天明年中。	
15	羅傑(フク)	多屋氏	通称平太夫	花徳と稱
16	す	肥州田口人	歴代大守	と勤、出政
17	五年五月十日歿	享年四十八	法華慈道宣	
18	章居士。			
19	羅月(フク)	秋氏	天然坊と稱す	比州桐生
20	人	文化年中。		

2826

1	羅月(ラゲツ)	吉田氏、通稱靱負、不動庵と稱す、筑後久留米人、八ヶ房門、享和年中。
2	羅月(ラゲツ)	陸前依佐宗岳院住職、時而露庵
3	羅高(ラカウ)	花多庵と稱す、江戸市ヶ谷四門
4	羅山(ラサン)	伊勢大洲人、天保年中。
5	羅道(ラドウ)	伊勢津人、寛政年中。
6	羅道(ラドウ)	兼子氏、通稱宇兵衛、阿波徳島藩士、嘉永年中。
寫瀛山房		
7	羅竹(ラチク)	伊勢大洲人、み、ウハリ、寛政
8	羅文(ラゲン)	松尾氏、通稱碧右衛門、一説
9	羅文(ラゲン)	陸奥三戸人、嘉永年中。
10	羅文(ラゲン)	神谷氏、名日一部、通稱彌一郎、
11	羅文(ラゲン)	又四郎兵衛、無涯堂と稱す、伊勢人、博良
12	羅文(ラゲン)	又永九年二月十一日歿、享年四十五。
13	羅婦(ラブ)	近江長濱人、丈石門、明和年中。
14	羅木(ラキ)	丹後淡人、又佐年中。
15	羅明(ラメイ)	但馬人、寛政年中。

2827

1	羅雄(ラウ)	笠井氏、通稱共作、倉秋彦、峰
2	羅雄(ラウ)	雪臺、南極と稱す、阿波徳島人、誘岐小豆
3	羅雄(ラウ)	島安田住、蓋札及び梅堂門、嘉永五年三月
4	羅雄(ラウ)	歿、享年七十三、緯世學、おしめまの如
5	羅雄(ラウ)	野藪か及
6	羅来(ラライ)	時而庵と稱す、播州龍野人、青
7	羅来(ラライ)	藩門、明和九年七月十六日歿、享年二十餘
8	羅来(ラライ)	追悼集(秋レ心ル、而人編)あり。
9	羅来(ラライ)	撰あり。
寫瀛山房		
10	来当(ライア)	岩井氏、通稱源助、京都人
11	来友(ライウ)	豊後府人、元禄年中。
12	来悠(ライウ)	小林氏、通稱宗輔、三日園。
13	来悠(ライウ)	五月園と稱す、播磨敦賀人、慶應年中。
14	来葉(ライエ)	三輪氏、蓬生園と稱す、陶
15	来葉(ライエ)	工木米の、京都人、祇園の歌妓と云ふ。
16	来歌(ライカ)	和歌正蓮月、豊比乙能す、後于蓬壁して貞
17	来信(ライシ)	信尼と稱す、明徳三十五年歿。
18	来應(ライエ)	松本氏、通稱道之助、松柏庵

2930

1	二柳門	知教	岩崎美隆	村田春門	畫	來至(ライシ)	金子氏	通稱甚右衛門	經高	來志(ライシ)	江州出澤人	天保年中	來是(ライシ)	大阪仙傳	二代目崑三五郎	家孫	寫瀛山房	京屋	初代の男	初名富三郎	仙名初山齋	子	孫	創製して	察嚴	和し	三洲	關崎	困居	享和二年五月六日	歿	享年七十二	來爾(ライル)	野木本氏	正月庵	青島	孫	來爾(ライル)	江戸湯島三組町横丁住	乾什門	來爾(ライル)	野木本氏	一世の男	來爾(ライル)	中村氏	名は貞明	通稱八右衛門	門	四端	松廼舎	松廼若翁	二平庵	仙語	堂	河内中河内郡豊浦村人	豪農
---	-----	----	------	------	---	---------	-----	--------	----	---------	-------	------	---------	------	---------	----	------	----	------	-------	-------	---	---	------	----	----	----	----	----	----------	---	-------	---------	------	-----	----	---	---------	------------	-----	---------	------	------	---------	-----	------	--------	---	----	-----	------	-----	----	---	------------	----

2931

1	來至(ライシ)	通稱尾尾	大兵衛	阿波人	江	來至(ライシ)	乙二門	文化年中	來至(ライシ)	江大津人	後了	京都住	畫	江	寫瀛山房	南岳	圓山應瑞	學公	一家王	下阿下俊	來至(ライシ)	明治四年七月十五日	歿	享年七十	來至(ライシ)	吳讓	十九條人	室永	來至(ライシ)	而巳庵	孫	常陸	來至(ライシ)	水戸人	永永年中	來至(ライシ)	出雲人	文化年中	來至(ライシ)	田川氏	播州西江村人	嘉永	年中
---	---------	------	-----	-----	---	---------	-----	------	---------	------	----	-----	---	---	------	----	------	----	-----	------	---------	-----------	---	------	---------	----	------	----	---------	-----	---	----	---------	-----	------	---------	-----	------	---------	-----	--------	----	----

2932

1	来川	(ライセ)	尾正氏	水野	多男丸	東浩		
2	产位	文久年中						
3	郭	初め古鈴	梅子	倫里	ノ男	江戸人		
4	享保	廿一年二月十五日	歿	深川	淨心寺	に葬		
5	金堂	録	夢物語	種	飄	の撰者あり		
6	来曾	(ライソ)	雀雲	と梅子	近世	登句	頼野	集
7	(文政三)	の編あり						
8	来竹	(ライチ)	信州善光寺人	文化	年中			
9	来化	(ライシ)	北風氏	攝津兵庫人	革命	の		
10	来家	燕抄門	天明	年中				
11	寫瀛山房							
12	来雨	(ライホ)	越州田邊人	塙亭門	文政	年中		
13	来也	(ライヤ)	手向の花	(天保十二)	楚南	逸書		
14	の撰あり							
15	来々	(ライライ)	河合氏	五湖庵	初め	湖貫		
16	梅子	大阪人	京都祇園新地末吉町住	映				
17	香洞	午胡	後寺	善求門	安永九年	九月十七		
18	日歿	享年五十四	辭世	帷子	口我	秋去衣		
19	か	志賀	の餘花	の撰あり				
20	来々	(ライライ)	梅々	高	梅子	讃州大坂	卯人	
21	来浪門	宝曆	年中					

2933

1	来々	(ライライ)	豊前小倉人	文化	年中			
2	峡舍	(ライシヤ)	大口氏	一醉亭	湖南	軒	の撰	
3	す	江戸浅草	御前	猿屋町住	嘉永	年中		
4	来山	(ライサン)	松本氏	直糸	庄左	末門	夕武	
5	庸	二世	梅子	江戸住	吉町住	香具	海世	
6	ふ	し家	富む	白芥門	文政三年	十二月	判者	
7	に	列す						
8	来山	(ライサン)	館氏	直糸	意朝	夕武	庵	住
9	遠	と梅子	江戸人	天保	年中			
10	来舟	(ライフネ)	邑桑庵	の撰	江戸	陽田川	記	
11	寫瀛山房							
12	位	又茶	事と能す	嘉永	年中			
13	来波	(ライハ)	武蔵川	藏人	文化	年中		
14	雷煙	(ライエン)	加藤氏	兩親	庵	の撰	猿雷	
15	門	明治	年中					
16	雷記	(ライキ)	大阪人	宝永	年中			
17	雷魚	(ライイサ)	今村氏	松竹	庵	の撰		
18	雷吟	(ライイン)	雲林軒	の撰	伊勢	長島	人	
19	元	禄	年中					
20	雷後	(ライゴ)	陸前	仙臺	人	明知	年中	
21	雷沙	(ライシャ)	因幡	人	文化	年中		

二ノ三六

1	雷山(ライザン)	高藤氏、紫水楼と稱す、初前
2	清河人、清川八郎の父、文久年中。	
3	雷山(ライザン)	大供氏、父母屠、豊平居、獲
4	佛と稱す、大東京府豊多摩郡千駄ヶ谷村住	
5	雷煙門、明治年中。	
6	雷三(ライジ)	信州善光寺人、文化年中。
7	雷子(ライシ)	大阪俳優、元祖嵐三五郎、本姓赤
8	田氏、幼名喜之助、京都岡崎村人、初少嵐	
9	勲四郎、後ち嵐三吾郎門に從ふ、元文四年	
10	七月十二日歿、享年五十三。	
竊瀧山房		
11	雷子(ライシ)	大阪俳優、四代目嵐三五郎、
12	三代目の男、幼名三四郎、後ち七代目市川	
13	團十郎に從ひ市川三十七と稱す、天保八年六	
14	月廿九日歿、享年三十四、大阪下寺町源盛	
15	寺に葬る。	
16	雷三(ライシ)	大阪俳優、三代目嵐三五郎、二代
17	目の男、幼名松之助、寛政九年三代目相模	
18	、文化十一年冬江戸に下る。	
19	雷枝(ライシ)	伊勢山田人、天知年中。
20	雷市(ライシ)	保田氏、京都人、享保年中。

二ノ三五

1	雷師(ライシ)	筒見氏、凡々曲と稱す、因幡人
2	瓜下門、文化年中。	
3	雷石(ライシ)	出田氏、通稱多喜、黄揚門と
4	稱す、甲斐山梨郡千野官村人、漫々の男、	
5	醫師、明治十六年十一月十一日歿、享年七	
6	十九、明治俳家五十鈴川集、の撰あり。	
7	雷堂(ライシ)	玉江舎、凡高と稱す、江戸人
8	、琴右門、僧都同答、の撰あり。	
9	雷澤(ライシ)	親中庵と稱す、二世宗瑞門
10	、白兔文集、と編す。	
竊瀧山房		
11	雷洞(ライシ)	伊賀土野人、蕉門、享保年中。
12	雷日(ライシ)	備後人、安永年中。
13	雷也(ライシ)	大阪人、元禄年中。
14	五石(ライシ)	三河一官人、元禄年中。
15	五女(ライシ)	樗蔭庵と稱す、伊豫人、文化
16	年中。	
17	賴意(ライシ)	親氏、高野山西蓮院住職、長享
18	年中。	
19	賴一(ライシ)	武藤氏、名は慶三郎、松蔭居
20	と稱す、上州吾妻郡坂上村大柏木住、梅白	

2240

1	樂可(ラノカ)	信州板訪人、天保年中。
2	樂意(ラノイ)	扇張知多西大高人、宝永年中。
3	樂(ラノ)	長安氏、通稱彌五郎、長州秋人、嘉永年中。
4	年八十四。	
5	秋と能(アキトノ)	明治三十八年一月十三日歿、享年八十四。
6	樂多(ラノタ)	備前見高郡大泉寺住職、又和歌山藩士、嘉永年中。
7	樂山(ラノヤマ)	多賀氏、通稱出雲、無障庵と稱す、秋高新方領中野村人、村會頭、神職、野逸門、文政七年春判者に列す。
8	樂山(ラノヤマ)	片山氏、朝陽軒と稱す、肥前高田藩士、嘉永年中。
9	樂山(ラノヤマ)	但馬日掛人、天保年中。
10	樂二(ラノニ)	出田氏、名曰和心、上州系事、即坂上村大柏木人、飯舟門、明治年中。
11	樂之(ラノシ)	土井氏、名曰正安、東氏と稱す、上州人、江戸住、又和歌山能す、天保年中。
12	樂高(ラノタカ)	能登七尾人、天保年中。
13	樂高(ラノタカ)	兼笠庵と稱す、江戸本所番場住、嘉永年中。
14	樂高(ラノタカ)	能登七尾人、天保年中。
15	樂高(ラノタカ)	兼笠庵と稱す、江戸本所番場住、嘉永年中。
16	樂高(ラノタカ)	能登七尾人、天保年中。
17	樂高(ラノタカ)	兼笠庵と稱す、江戸本所番場住、嘉永年中。
18	樂高(ラノタカ)	能登七尾人、天保年中。
19	樂高(ラノタカ)	兼笠庵と稱す、江戸本所番場住、嘉永年中。
20	樂高(ラノタカ)	能登七尾人、天保年中。

2241

1	樂我(ラノガ)	信州藤沢人、元禄年中。
2	樂我(ラノガ)	高氏、緑井と稱す、江戸八丁堀住、嘉永年中。
3	樂我(ラノガ)	青木氏、名曰松年、夜半亭八世と稱す、横濱市太田町住、宋路門、明治年中。
4	樂我(ラノガ)	能登七尾人、天保年中。
5	樂我(ラノガ)	兼笠庵と稱す、江戸本所番場住、嘉永年中。
6	樂我(ラノガ)	能登七尾人、天保年中。
7	樂我(ラノガ)	兼笠庵と稱す、江戸本所番場住、嘉永年中。
8	樂我(ラノガ)	能登七尾人、天保年中。
9	樂我(ラノガ)	兼笠庵と稱す、江戸本所番場住、嘉永年中。
10	樂我(ラノガ)	能登七尾人、天保年中。
11	樂我(ラノガ)	兼笠庵と稱す、江戸本所番場住、嘉永年中。
12	樂我(ラノガ)	能登七尾人、天保年中。
13	樂我(ラノガ)	兼笠庵と稱す、江戸本所番場住、嘉永年中。
14	樂我(ラノガ)	能登七尾人、天保年中。
15	樂我(ラノガ)	兼笠庵と稱す、江戸本所番場住、嘉永年中。
16	樂我(ラノガ)	能登七尾人、天保年中。
17	樂我(ラノガ)	兼笠庵と稱す、江戸本所番場住、嘉永年中。
18	樂我(ラノガ)	能登七尾人、天保年中。
19	樂我(ラノガ)	兼笠庵と稱す、江戸本所番場住、嘉永年中。
20	樂我(ラノガ)	能登七尾人、天保年中。

246

1	山岡終(ラケイ)	武蔵人	文化年中。
2	尚亮(ラケウ)	筑前人	天保年中。
3	尚月(ラケツ)	雲孝坊	移す、京都人、士朗
4	尚月(ラケツ)	文化年中。	
5	尚月(ラケツ)	金戸氏	名曰源之助、蕉而庵
6	尚月(ラケツ)	紀州田邊町北新町住	素雄門、明
7	尚月(ラケツ)		
8	尚月(ラケツ)		
9	尚月(ラケツ)		
10	尚月(ラケツ)		
11	尚月(ラケツ)		
12	尚月(ラケツ)		
13	尚月(ラケツ)		
14	尚月(ラケツ)		
15	尚月(ラケツ)		
16	尚月(ラケツ)		
17	尚月(ラケツ)		
18	尚月(ラケツ)		
19	尚月(ラケツ)		
20	尚月(ラケツ)		

247

1	に寓居して尚山	改む、	通村及ぶ其の
2	に寓居して尚山	改む、	通村及ぶ其の
3	に寓居して尚山	改む、	通村及ぶ其の
4	に寓居して尚山	改む、	通村及ぶ其の
5	に寓居して尚山	改む、	通村及ぶ其の
6	に寓居して尚山	改む、	通村及ぶ其の
7	に寓居して尚山	改む、	通村及ぶ其の
8	に寓居して尚山	改む、	通村及ぶ其の
9	に寓居して尚山	改む、	通村及ぶ其の
10	に寓居して尚山	改む、	通村及ぶ其の
11	に寓居して尚山	改む、	通村及ぶ其の
12	に寓居して尚山	改む、	通村及ぶ其の
13	に寓居して尚山	改む、	通村及ぶ其の
14	に寓居して尚山	改む、	通村及ぶ其の
15	に寓居して尚山	改む、	通村及ぶ其の
16	に寓居して尚山	改む、	通村及ぶ其の
17	に寓居して尚山	改む、	通村及ぶ其の
18	に寓居して尚山	改む、	通村及ぶ其の
19	に寓居して尚山	改む、	通村及ぶ其の
20	に寓居して尚山	改む、	通村及ぶ其の

2456

1	丁目住、嘉永年中。	根岸氏、名口有栲、上池堂。
2	藍水(ラノス)	名口有栲、上池堂。
3	藤才、秋花熊、谷在甲山、村人、嘉永年中。	
4	藍堂(ラノカ)	阿波黒田人、文化年中。嘉永年中。
5	藍庭(ラノア)	藤井氏、名口勘造、倉明合。
6	藤才、美濃不破、石井町人、芥舎門、明佐	
7	年中。	
8	藍峰(ラノホ)	伊藤吉田人、文化年中。
9	柳縁(ラノエ)	通称上金屋相藏、備中人、嘉
10	永年中。	
瀧山房		
11	瀧山(ラノサ)	素玉庵、米花庵、柳才、雙亮
12	門。	
13	瀧臺(ラノタ)	岡氏、六月庵、四曜庵、柳才
14	、江戸浅草寺、三、八、町住、海旭門。	
15	瀧亭(ラノテ)	通称、錢屋伊助、大坂南本町一
16	丁目住、嘉永年中。	
17	蘭(ラノ)	加賀金澤人、天明年中。
18	蘭(ラノ)	中匠氏、名口春庵、通称典膳
19	蘭(ラノ)	出雲杉築大社神官、天保中
20	中。	

2457

1	蘭庭(ラノイ)	美濃小栴人、宝永年中。
2	蘭宇(ラノウ)	筑前福岡人、文化年中。
3	蘭雨(ラノウ)	飯塚氏、名口禪應、住芳園、柳
4	才、初後川、德、石村、松、蓮、寺、住、職、金、鳳、門	
5	、明治年中。	
6	蘭雲(ラノウ)	美濃谷口人、宝永年中。
7	蘭影(ラノエ)	美濃人、宝永年中。
8	蘭岐(ラノカ)	奥州人、天明年中。
9	蘭雅(ラノカ)	山石代信夫人、明和年中。
10	蘭界(ラノカ)	名口秀、藤谷栲、柳才、信州
瀧山房		
11	松代人、又、詩書上、能才、嘉永年中。	
12	蘭江(ラノカ)	相州小田原人、紀遠門、寶曆
13	年中。	
14	蘭江(ラノカ)	石見土江人、寛政年中。
15	蘭文(ラノカ)	陸前仙臺人、明和年中。
16	蘭岡(ラノカ)	鹿苑、貝塚人、天明年中。
17	蘭香(ラノカ)	中道氏、通称、杉、右、宗、門、山、城
18	北山人、文化年中。	
19	蘭香(ラノカ)	安藝、廣、島、人、文化年中。
20	蘭香(ラノカ)	備中人、文化年中。

柴田笥浦『新俳人譜』について

1	蘭香 (ラカウ)	通称近江屋新之助、胡蝶舎
2	梅子 (ウメ)	陸中土樽所人、嘉永年中。
3	原田氏 (ハラノ)	江戸千駄木伊藤部
4	庄任 (サト)	嘉永年中。
5	蘭角 (ラカク)	幽亭堂と梅子、立初不角門。
6	蘭甘 (ラカカン)	美濃人、宝永年中。
7	蘭妃 (ラカヒ)	近江膳所人、元禄年中。
8	蘭菊 (ラカキク)	尾張小牧原新田人、宝永年中。
9	蘭郷 (ラカキョウ)	伊豫人、文化年中。
10	蘭花 (ラカカ)	武市氏、名曰信玉、宝口士埜
寫瀛山房		
11	通称辰兵衛	芝山、小春園と梅子、阿波
12	任高藩士	天保年中。
13	蘭光 (ラカウ)	米氏、晋子堂と梅子、大坂
14	北堀江四丁目住	天保年中。
15	蘭今 (ラカイ)	竹撃坊と梅子、江戸人、完衆
16	後石鉢門	
17	蘭松 (ラカウ)	秋氏、名曰敬明、近江大津永
18	順寺住職	葵太門、天明年中。
19	蘭柳 (ラカウ)	陸中盛岡人、文政年中。
20	蘭溪 (ラカウ)	豊前小倉人、享保年中。

1	蘭溪 (ラカウ)	梁崎氏、通称平信、近江堅田
2	人	天明年中。
3	蘭惠 (ラカエ)	山田氏、近江大津人、類高
4	文政五年歿	京都高麗場一文字屋伊藤部、元禄
5	蘭月 (ラカグツ)	秋後人、元禄年中。
6	蘭月 (ラカグツ)	江戸八幡人、天保年中。
7	蘭叶 (ラカエ)	美濃人、宝永年中。
8	蘭戸 (ラカウ)	肥前長崎人、宝永年中。
9	蘭戸 (ラカウ)	大坂人、寛政年中。
10	蘭戸 (ラカウ)	美濃人、寛政年中。
寫瀛山房		
11	蘭古 (ラカコ)	岡本氏、陶舎と梅子、大坂人
12	矩州門	
13	蘭古 (ラカコ)	信州上高井郡村山人、文化年中。
14	蘭孤 (ラカコ)	大和奈良人、元禄年中。
15	蘭虎 (ラカコ)	通称小一、文字屋伊藤部、京都
16	高麗高麗館屋	太秋門。
17	蘭故 (ラカコ)	紀州人、宝曆年中。
18	蘭袴 (ラカカ)	通称紀伊國屋武兵衛、文政新刊
19	四日市人	天明四年七月某九門に入。
20	蘭谷 (ラカコ)	豊後倉と梅子、文政年中。

2460

1	寛延年中。	肥前守人	元禄年中。	
2	蘭國(ラッコ)	横濱氏	匠師宗輔	秋香庵
3	蘭山(ラッ)	相州中依知村人	嘉永年中。	
4	蘭高(ラッ)	深海氏	通稱藤兵衛	文台舎
5	中。	京都府桑田郡龜岡町人	明治中。	
6	蘭宿(ラッ)	加賀金澤人	天保年中。	
7	蘭宿(ラッ)	小田氏	通稱植五郎	日向人
8	嘉永年中。			
寫瀧山房				
9	蘭標(ラッ)	前高氏	通稱考次郎	花抱庵
10	蘭三(ラッ)	必登唐島人	元禄年中。	
11	蘭山(ラッ)	高井氏	名仕伴覺	空日忠明
12	通稱文左衛門	江戸人	通稱藤兵衛	小説家
13	して高名	著述多し	天保九年十二月廿三	
14	日校	享年七十	今川	増崎山
15	蘭山(ラッ)	諺州金昆羅人	文化年中。	
16	蘭山(ラッ)	奥村氏	通稱皆木系	宝電

2461

1	庵二世	大斎園	修了	吳隨門	はつすい
2	リ	(文政四)	瑛あり		
3	蘭山	皆川氏	父日麟三	江戸本所入江町	
4	住	嘉永年中。			
5	蘭二(ラッ)	琴堂	修了	信明人	さ、ふ
6	相	(寛政五)	瑛あり		
7	蘭二(ラッ)	常陸人	寛政年中。		
8	蘭二(ラッ)	中村氏	通稱豊高	柿帶園	修了
9	才	筑前福岡藩眼科醫官	亦橋村住	天保	
10	年中。				
寫瀧山房					
11	蘭市(ラッ)	越中井波人	享保年中。		
12	蘭史(ラッ)	近藤氏	名口元吉	有園	修了
13	蘭次(ラッ)	豊後大野郡三重町住	果熟門	明治年中。	
14	蘭芝(ラッ)	我中高岡人	元禄年中。		
15	蘭芝(ラッ)	美濃十五條人	元禄年中。		
16	蘭芝(ラッ)	行隊人	寛政年中。		
17	蘭枝(ラッ)	加賀金澤人	天保年中。		
18	蘭草(ラッ)	我中井波人	享保年中。		
19	蘭舟(ラッ)	我本氏	初め勝秀	中頃林道	
20	晩年宗懐	別に保老高	修了	宗仁の叔	

2962

1	蘭秀(ラシウ)	備後人、寛政年中。	蘭秀(ラシウ)	備中倉敷人、宝永年中。	蘭秀(ラシウ)	備前天童人、天明年中。	蘭秀(ラシウ)	但馬生野人、安永年中。	蘭秀(ラシウ)	河内人、文化年中。	蘭秀(ラシウ)	備後人、寛政年中。
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
9												
10												
11												
12												
13												
14												
15												
16												
17												
18												
19												
20												

寫瀧山房

2963

1	蘭秀(ラシウ)	備後人、天明年中。	蘭秀(ラシウ)	備前天童人、天明年中。	蘭秀(ラシウ)	但馬生野人、安永年中。	蘭秀(ラシウ)	河内人、文化年中。	蘭秀(ラシウ)	備後人、寛政年中。
2										
3										
4										
5										
6										
7										
8										
9										
10										
11										
12										
13										
14										
15										
16										
17										
18										
19										
20										

寫瀧山房

2468

1	蘭風 (ラハク)	伊勢神人	元禄年中
2	蘭風 (ラハク)	三河西郡人	元禄年中
3	蘭風 (ラハク)	藤井氏	水仙堂と稱す、礪津
4	蘭野人	蘆野村 (室永五)	の跡あり。
5	蘭風 (ラハク)	越後高田人	享保年中
6	蘭圃 (ラハク)	佐伯氏	名は環、伊勢津藩士
7	文化年中		
8	蘭圃 (ラハク)	越中人	文化年中
9	蘭圃 (ラハク)	岩山氏	名は高亮、初め屋敷
10	梅嶺と稱し、四世花月堂と稱す、陸奥八戸		
寫瀛山房			
11	藩士、後了郡縣會議員に選ばれ、日露役の		
12	功により勲七等に叙す		
13	北馬二世門、明治		
14	年中歿。		
15	蘭風 (ラハク)	中村氏	通稱九兵衛、一二樓
16	と稱す、京都新町二條南住		天保年中
17	蘭地 (ラハク)	支考門	室永年中
18	蘭丸 (ラハク)	河内傳田村人	古鏡門、嘉永
19	年中		
20	蘭明 (ラハク)	豊後玖珠人	元禄年中
21	蘭明 (ラハク)	田上氏	月夜庵と稱す、大坂

2469

1	人	天明年中	
2	蘭里 (ラハク)	越中魚津人	享保年中
3	蘭里 (ラハク)	荒巻氏	蓬戸亭と稱す、豊後杵
4	筑人	出永五年十一月歿	忠喜身 (雪の味)
5	あり		
6	蘭果 (ラハク)	羽前能登人	文政年中
7	蘭亮 (ラハク)	川上氏	通稱伴登、呂人
8	貞亮、吳竹庵と稱す、筑後久留米人		野坡
9	蘭淡 (ラハク)	渡辺氏	名は信、通稱宇治
寫瀛山房			
10	屋周輔	桃源の男	諺波寒川即志良人、寛
11	政十年八月廿四日歿		享年五十六
12	蘭陵 (ラハク)	岡田氏	通稱竹左衛門、但
13	馬湯村人		文化年中
14	蘭陵 (ラハク)	金子氏	通稱三右衛門、芳
15	堂と稱す、武石岩槻領長官村人		村會頭
16	文政八年八月列山門に入り		天保八年八月
17	蘭陵 (ラハク)	二日歿	
18	蘭陵 (ラハク)	出養彦人	天保年中
19	通稱長門		名は長

